



《プリンシプル消化器疾患の臨床》 第3巻

ここまできた肝臓病診療

専門編集 佐々木 裕

総編集 佐々木 裕

編集委員 木下 芳一, 下瀬川 徹, 渡辺 守

関西労災病院院長

林 紀夫

中山書店から《プリンシプル消化器疾患の臨床》シリーズ3巻の『ここまできた肝臓病診療』(専門編集 佐々木 裕)が刊行された。このシリーズでは消化器疾患の臨床を臓器別に4巻に分けて、日常臨床で遭遇することの多い疾患を中心に最新の専門知識と診療実践のスキルを、視覚的にわかりやすく提示している。本書は本邦に多い肝疾患について疾病構造の変化を俯瞰しつつ、新たな疾患概念、診断法・治療法について図表を多く取り入れ理解しやすく記載している。

医学・医療の進歩には目を見張るものがあり、肝疾患の領域でも新しい診断マーカー・画像診断や有効性の高い治療薬が開発されただけでなく、疾患の概念が変わった疾患もあり、その進歩は際立っている。特に、本邦において疾患頻度の高いC型肝炎ウイルス(HCV)やB型肝炎ウイルス(HBV)関連肝疾患では、その診断や治療は大きな変貌を遂げている。C型肝炎の領域では従来のインターフェロン治療からインターフェロンフリーのDAA製剤による治療に大きく変わり、C型肝炎ウイルス排除率は非常に高くその治療効果も大きく改善したが、これらの薬剤の投薬に当たっては副作用や薬剤耐性など多くの専門的な知識が要求される。一方、NAFLD(非アルコール性脂肪性肝疾患)やNASH(非アルコール性脂肪性肝炎)などの新たな疾患概念なども提唱され、肝疾患や消化管疾患など多岐にわたる消化器系疾患の臨床に携わっている消化器系領域の専門医が、常に最新の情報を知り日常の診療に活用することは容易なことではない。本書は、肝疾患総論、検査・診断、治療法総論、治療法各論で構成されている。肝疾患では個々の疾患で共通の診断法や治療法があり、本書のような構成の方が診断や治療をより体系的に理解でき、先生方にも有用と考える。また、カラー図を多く使い最新の情報をまとめられており、多忙な先生方でも容易に肝疾患の最新情報をご理解いただければ、日常の臨床にも有用な実用書である。

現在、日本では高齢者の増加にともない医療制度が大きく変貌をとげようとしており、専門医制度に関しても日本専門医機構が中心となり2018年4月からの新専門医制度の見直しが行われている。総合内科医のように内科全般を診療できる医師も必要であるが、肝臓や消化器などのより専門性が高い専門医の育成も重要な課題である。日本は肝疾患が多い国であり、疾患の診断や治療に専門性の高い判断が要求される時代には多くの肝臓専門医が必要であるが、肝疾患を専門とされていない先生方が肝疾患を診療される機会も多く、そのような先生方にも実践的な内容となっている本書をご活用いただき、日常診療にお役立ていただければと考える。

●中山書店 刊 B5 頁432 2017年
定価:本体12,000円+税
ISBN 978-4-521-74444-5